

## カリフォルニアの風（6月号）

集中学習が終わって、およそ2か月の夏休み期間に入りました。

お元気ですか。あなたは今、どこでこれを読んでくれていますか。

私は、集中学習最終日の朝、サンノゼ校の中高等部にいました。見上げると真っ青な空。それが遠くまで続いていました。そのとき、他の3校の子どもたちも、「この空のもとにいる」ということが思い浮かび、4校のすべての子どもたちに語りかける気持ちで、サンノゼ校中高等部のみなさんへ、次のメッセージを贈りました。

とうとう今日がきました。今日は締めくくりの日です。

振り返りますと、これまで現地校がある中、宿題に取り組んだ。授業にも出席した。

本当によくがんばったよ。

よくがんばったね。今こそ、がんばった自分をほめよう。「よくがんばったなあ」と。

また、お友だちと交流もできたね。お友だちと過ごすことができたことに感謝しようよ。

クラスのお友だち、児童会生徒会の仲間、先生方、そしてお弁当を作ってくれてそのうえ送り迎えまでもしてくれたお家の方に、感謝の気持ちを伝えよう。「ありがとう」って。

そのお友だちたちと、明日からしばらくの間、会えなくなるね。

さびしいね。私もさびしい。

でもね。8月の終わりには、一回りも二回りも大きく成長し、たくましくなった一人ひとりの元気な表情を心の中に思い浮かべると、さびしさよりも楽しみの方が大きくなります。

だから、だから、健康に十分注意してください。交通事故にはぜったいあわないように。

そして、この2か月間は、いろいろなことにチャレンジして体験をして、自分のよさや可能性が見つかりますように。将来の自分について考える期間にするのも、いいことだと思う。では、夏休みが終わったとき、「これまでで一番充実していました！」となることを願っています。

読んでみて、どう思いましたか。メッセージに託した私の思いがあなたに伝わりましたか。

よかったら、あなたの様子やできごとを手紙にして送ってください。待っています。元気でね。

保護者の皆様へ

先日、七夕飾りがありましたので、どんなことが書いてあるのかなと目を近づけて見ました。

「本がもっと上手に読めますように」「日本でお友だちに会えますように」「字が上手に書けるようになりますように」「日本語が上手になりますように」などがあり、中には、「お母さんの腰が治りますように」というのもありました。素直にすくすくと育ち、感性豊かな様子が感じられ、思わずにこりとしてしまいました。このような子どもの姿が見られるのも、この紙面の上にも触れましたが、約3年ぶりに対面学習を再スタートさせてのこの3か月間、保護者の皆様が、本校の教育推進についてご理解をいただき、様々な面からご協力ご支援をいただいたからこそ、改めまして心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、夏休みに入りました。お子さんの様子はどうでしょうか。この場をお借りして、次の二つについて、私どもと一緒に気持ちになってお子さんと過ごしていただけたらと願い、お伝えいたします。

一つ目は、「お子さんを『話し上手』に」、二つ目は、「子どもの視野」についてです。

子どもは言葉を覚え始めのころ、その言葉を何度も使って母親や父親など周りの人に確かめようとします。また、少し年齢が上がると、自分が見聞きしたことについて「あれは何」「どうして……なの」と色々な質問をして親を困らせることもあります。記憶にあるという方もいらっしゃるのではありませんか。しかし、このことによって、子どもは語彙を増やし、知識をひろげ、「話し方」「聞き方」の学習をしながら人と人との交流の仕方を身に付けていきます。ですから、この過程は子どもの成長に欠かせないことになります。

しかしながら、子どもは年齢が低いほど相手の事情をあまり考えずに話しかけてくるもので、忙しいときでも平気で話しかけてきます。そのとき、親は面倒くさがらないで、子どもの話を受けとめて、よく聞いてあげることが何よりも大切だと思います。同時に、どういうときに話しかけてはいけないかについても話をする必要があります。そのことによって、子どもは「話し上手」になります。親の態度というものは敏感に子どもの心に反映するもので、話をしても聞いてくれない環境にあれば、子どもは次第に口を閉ざしてしまいます。

そこで、お子さんと目と目を交わし、お子さんの悩みや相談ごとを「聞き上手」で対応していただき、お子さんを「話し上手」にしていきたいと思っています。

次に、私は子どもたちに向かって、「交通事故にぜったいあわないように」というメッセージを贈りました。日本では交通訓練等様々な場面で繰り返し交通事故防止を指導します。しかし、現実に交通事故が起こってしまうことに心を痛めます。この地では「そんなに心配するようなことはありません」と言われそうですが、安全教育の専門家によると、子どもの視野の広さは大人の左右150度に対して90度と狭いもので、さらに上下の視野は、大人が120度に対して子どもは70度だそうです。大人には見える車の動きが、子どもには見えない場合があるといえるのではないのでしょうか。

また、聴覚についても子どもは未熟で、何かに気をとられると、他のことには注意が向けられなくなるということも子どもの特性としてあります。

夏休み中、お子さんが自転車に乗る機会もあることと思います。子どもの特性を理解していただき、お子さんが交通事故にあうことがないよう、観察をお願いしたいと思っています。

結びに、私は4月に着任して以来、子どもたちと20日間、一緒に過ごしました。その中で、本校で学ぶ子どもたちは、すべてが将来のグローバル人材で、その価値は桁外れに大きいと感じました。今後は、そのことを常に心して、教育計画の工夫改善に努めなければならないと思っています。

追伸 次ページに、本校ホームページ「学校長あいさつ（6月版）」を添付いたしました。「集中学習」期間中の子どもたちの姿を中心にまとめましたので、ご一読いただけましたら幸いです。